エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2010.7.15 No.81

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
123	建築製品（内装工事関係用資材）Version 2.8」【分類D：ユニットおよびその他の工事用資材／D-5：高速シートシャッター】（適用範囲の拡大）	2010年7月1日	2017年12月31日
144	革製衣料品・手袋・ベルト Version1.0（新基準）	2010年7月1日	2017年 6月30日
145	プロジェクタ Version1.0（新基準）	2010年7月1日	2017年 6月30日

◆認定基準は（http://www.ecomark.jp/nintei.html）をご覧ください。

〈認定基準制定の背景〉

■商品類型 No.123「建築製品（内装工事関係用資材）Version2.8」D-5：高速シートシャッター

高速シートシャッターは、主に産業用として工場・倉庫などで建築物内外の開口部に設置され、シート部分が高速高頻度で上下に開閉するシャッターです。工場・倉庫の外部面には鋼製シャッターが設置されていますが、開閉速度が遅く開け放しとなることが多いため、開口部の冷暖房エネルギーのロスが生じます。高速シートシャッターは、高速で開閉するために常時開放することがなく、気密性を保ち、屋内からのエネルギーの流出を低減することで、空調等の省エネに寄与します。これらの観点から、建築製品認定基準の新たな分類として追加しました。

■商品類型 No.144「革製衣料品・手袋・ベルト Version 1.0」

エコマークにおいて衣料品は、1992年より繊維製のものを対象として商品類型を設定し、実績があり、かつ認定商品数も多い分野の一つです。しかしながら、革製の衣料品については、皮革の環境負荷を評価する基準が整備されていなかったことから、これまで認定の対象外となっていました。そこで、エコマークでは、消費者にとって身近な革製衣料品を対象としてとりあげ、環境に配慮された材料で製造され、かつ長期使用の促進により廃棄物の削減にもつながる基準を策定することとしました。

■商品類型 No.145「プロジェクタ Version 1.0」

プロジェクタは近年、ビジネス市場で活用される領域が増え、消費者向けとしてもホームシアターなどの用途で利用が進んでいますが、省エネラベリング制度やグリーン購入法など国内の規格や法令等の対象となっていないため、省エネ性能等の環境基準が設定されていません。エコマークにおいて、消費電力や水銀ランプの回収に関する基準など、資源採取から廃棄、リサイクルにわたる基準を策定することで、製品の環境配慮を促進させ、製品のライフサイクル全体の環境負荷低減を進めることを目的として制定しました。

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付を行っていますので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間（30 日間）
新規	まほうびん Version 1.0	2010 年 7 月 1 日～2010 年 7 月 30 日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については（http://www.ecomark.jp/nintei2.html）をご覧ください。

認定基準の改定

以下の認定基準の軽微な改定を行いましたので、お知らせいたします（Version は改定前のもの）。

類型番号	商品類型名	改定日	改定のポイント
112	文具・事務用品 Version 1.11	2010 年 7 月 1 日	窓付き封筒の窓部に、分別が可能な構造であれば再生プラスチックフィルムの使用も認める内容に変更
140	詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.3	2010 年 7 月 1 日	紙製容器の重量基準をプラスチック製容器とは別に設定

◆改定点の詳細については、（http://www.ecomark.jp/econews.html#no81_2）をご覧ください。

委員会報告

基準審議委員会（第 1 回）

第 1 回基準審議委員会＊が 2010 年 6 月 28 日に開催されました。審議・報告事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について
   （1）「まほうびん Version 1.0」（P.2 参照）
2. エコマーク商品類型（認定基準）の軽微な改定について（P.2 参照）
   （1）No.112「文具・事務用品 Version 1.11」
   （2）No.140「詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.3」

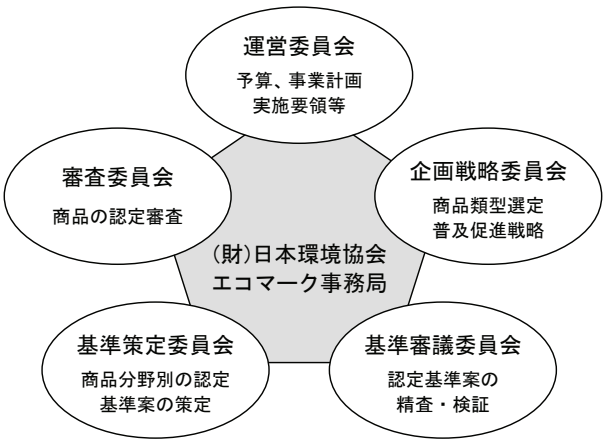
〈報告事項〉

3. エコマーク商品類型の基準策定状況について
   （1）新規商品類型「自動車保険」
4. エコマーク商品類型の制定について（P.1 参照）
   （1）No.123「建築製品（内装工事関係用資材）Version 2.8」D：ユニットおよびその他の工事用資材／D-5：高速シートシャッター
   （2）No.144「革製衣料品・手袋・ベルト Version 1.0」
   （3）No.145「プロジェクタ Version1.0」

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/econews.html#b81）をご覧ください。

＊エコマーク委員会制度について

基準審議委員会は、2010 年 4 月の委員会制度一部改正により新しく設置された委員会のひとつです。新体制での事業運営が始まっています（下図参照）。
運営体制の詳細 http://www.ecomark.jp/unei.html



エコマーク事業の運営体制

㊐認定商品のご紹介

エコマーク認定のグラスが登場
――外食チェーンがウイスキーびんの再生ガラスを使用し開発、店舗で導入

外食チェーンを展開する(株)プロントコーポレーションでは、店舗で発生するウイスキーの空きびんを再生利用したグラスを開発し、カフェ&バー「プロント」の店舗で再び利用する取り組みを進めています。この「プロント エコグラス」が、商品類型No.128「日用品」において、このほどエコマークの認定を取得しました（認定番号09 128 035）。

●キャンペーンの象徴として「エコグラス」を開発

プロントコーポレーションでは、2009年12月に東京本社・西日本支社・チェーン201店舗を対象にISO 14001の認証を取得。これを受けてチェーン全体で環境活動を推進していくために、2010年より「プロント・ラブ・グリーン」キャンペーンをスタートさせました。

本キャンペーンでは、産地や製法など環境に配慮した食材・素材を使ったメニューを提供するとともに、対象メニューの売上の一部を環境緑化活動に寄付するなどの取り組みを行っています。

同社ではキャンペーンの実施にあたり、昨今の「ハイボール」人気で使用量が増加しているサントリーウイスキー「角瓶」に着目し、象徴となる製品として、空きびんを再生利用したリサイクルグラスの開発・導入の可能性について検討を行いました。東洋佐々木ガラス(株)の協力を得て製品の開発を進めるとともに、エコマークの認定に取り組み、すべての基準をクリアし認定取得にいたりました。

エコマーク認定の
「プロント エコグラス」

●環境配慮と品質の両立

「プロント エコグラス」の開発にあたっては、いくつかのハードルをクリアする必要がありました。

ウイスキーはグラスの飲み口の形状・薄さによって味の感じ方が大きく変わります。再生ガラス素材を用いることや一般製品との製法の違いなどから、口部を望ましい薄さにするのは容易ではなく、3人の東京都伝統工芸士を含む熟練ガラス職人の協力を得て、1.5mmの薄さを実現することに成功しました。

「プロント エコグラス」は、「プロント」のブランドカラーでありキャンペーンのシンボルカラーでもある緑色をしていますが、素材の含有物質等に関する認定基準をクリアしながら緑の色合いを出すために、酸化鉄を混ぜるなどの工夫をしました。

また、業務用に使用される製品であるため、再生素材を使用したグラスとして食品衛生法の基準をクリアすること、ハードユースにも耐えうる強度を確保することなど、環境配慮と品質の確保を両立させるための努力を重ね、製品化を実現しました。

●飲食を通じて環境活動を促進

全国の「プロント」151店舗では2010年5月より、シングルモルトウイスキー「白州10年」を使ったドリンクを「プロント エコグラス」で提供しており、他のキャンペーンメニューと同様、売上の一部が国内の緑化活動に寄付される仕組みになっています。

飲食を通じて気軽に環境活動に参加できるため、キャンペーンの取り組みは顧客からも好評を得ています。また、外食チェーンで初めて再生グラスを自社開発・導入したこと、ウイスキーの空きびんを素材として使用したことなどから、外食業界や酒販業界においても注目を集めています。

同社では今後も「プロント・ラブ・グリーン」キャンペーンの取り組みを充実させ、環境に配慮したメニューを顧客に提供していくとともに、店舗で使用する紙袋、プラスチックカップ、紙おしぼり、紙ナプキンの減量化、店舗の壁面緑化、LED照明の導入などを進め、環境負荷の低減を図っていく考えです。

◆「プロント」ウェブサイト
http://www.pronto.co.jp/
◆「プロント・ラブ・グリーン」キャンペーンに関するサイト
http://www.pronto.co.jp/company/csr/plovegreen/index.html

トピックス

GEN 役員会に出席しました

5月7日に、世界エコラベリング・ネットワーク＊（以下、GEN）役員会がアイルランドのダブリンで開催され、エコマーク事務局からGEN役員およびGEN総務事務局担当者が出席しました。

会議では、国際標準化機構（ISO）や国連環境計画（UNEP）といった関連の国際機関との関係強化を一層推進していくこと、現在ISO14067として規格化の検討が行われているカーボンフットプリントラベリングについてタイプⅠ環境ラベル機関として今後どのように取り組んでいくかなど、GENの活動内容や運営について議論が行われました。

GEN 役員会の様子

なお、2010年のGEN年次総会は10月末にアメリカ・ワシントンで開催される予定です。

＊世界エコラベリング・ネットワーク
（Global Ecolabelling Network ; GEN）
ISO14024 タイプⅠ環境ラベル制度を運営するエコラベル機関（正会員）と、エコラベルに賛同する一定条件を満たした団体である準会員により構成されるネットワークで、現在28団体が加盟。協力パートナーとして会員相互が連携・協力を図ることで、エコラベルならびに認定商品の国際的な普及を目指しています。
URL　http://www.globalecolabelling.net/

「ドイツ・欧州の最新環境事情セミナー」を開催しました

エコマーク事務局では5月19日、ドイツ在住の環境規制コンサルタント、望月浩二氏による「ドイツ・欧州の最新環境事情セミナー」を開催し、42名の方にご参加いただきました。

講演では、ドイツの環境ラベル「ブルーエンジェル」の最新情報、ドイツ・欧州の環境政策や環境規制動向のほか、実際に放送されたテレビ番組を使った事例紹介などが行われ、大変内容の濃いセミナーとなりました。

エコマーク事務局では今回のような機会を通じて、今後もステークホルダーの皆様にとって有用な情報の提供に努めていきたいと思っております。

セミナーの様子

エコマークニュース 第81号　2010年7月15日発行

編集・発行／財団法人 日本環境協会　エコマーク事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F
TEL：基準・認証課　03-5643-6253　FAX：03-5643-6257（各課共通）
総務・契約監査課　03-5643-6255
普及・国際協力課　03-5643-6255
Homepage：http://www.ecomark.jp　E-mail：ecomark@japan.email.ne.jp

エコマークは（財）日本環境協会の登録商標です。